

電子出版システム

Open Journal Systems(OJS)システム移行ガイド

Version 1.0.0 - 2010.02.26

1. 概要.....	3
2. 現行システム構成.....	3
2.1.OS.....	3
2.2.ソフトウェア.....	3
3. 事前準備.....	3
4. 移行手順.....	4
4.1.Webサーバーの停止.....	4
4.2.OJS-2.2.0のバックアップ.....	4
4.3.OJS-2.2.4のインストール.....	5
4.4.データ移行.....	6
4.5.Webサーバーの起動.....	8
4. その他、移行後の問題点.....	8

1. 概要

このガイドは、現行稼働中の Open Journal Systems(OJS)をバージョン 2.2.0 から 2.2.4 へ移行するための手順および気付いた問題点等を記述したものです。また、OS やアプリケーション等の構成については、下記の「2.現行システム構成」に記載されているシステム、OJS のインストールについては、「Full Package」でのインストールを行い、2.2.0 と 2.2.4 を平行稼働させることを前提に記述しました。

注意: 操作手順については、各サイトのシステム構成状況により、多少異なる場合があります。

2. 現行システム構成

2.1.OS

- ・ Redhat Enterprise Linux ES4

2.2.ソフトウェア

- ・ httpd-2.0.52 (Redhat Linux に付属のもの)
- ・ php-4.3.9 (Redhat Linux に付属のもの)
- ・ Postgresql-7.4.19 (Redhat Linux に付属のもの)
- ・ OJS-2.2.0

3. 事前準備

OJS-2.2.4(新バージョン)のダウンロード。

【 URL 】

http://pkp.sfu.ca/ojs_download

1. 上記 URL へアクセスし、「Stable Release」から OJS-2.2.4 をダウンロード。

- ・ Current Stable Release (November 19, 2009)
「Download OJS 2.2.4(.tar.gz)」のリンクをクリック。
- ・ 「ojs-2.2.4.tar.gz」の名称でファイルがダウンロードされますので、適切な場所へ保存してください。

4. 移行手順

4.1.Web サーバーの停止

- 1.移行作業時に、ユーザーからの Web アクセスを制限するため Web サーバーを停止。

【 コマンド例 】

```
root ユーザーからコマンドを実行。  
# /etc/init.d/httpd stop
```

- 2.その後、Web サーバーへアクセスできないことを確認してください。

4.2.OJS-2.2.0 のバックアップ

OJS 本体とデータベース(Postgresql)のバックアップを行います。

1.OJS 本体のバックアップ。

Web サーバーの htdocs ディレクトリにある、OJS-2.2.0 ディレクトリをバックアップ。その他、必要であれば OJS-2.2.0 ディレクトリ内の「config.inc.php」を参照し、

- ・「base_url =」
- ・「files_dir =」
- ・「public_files_dir =」

に設定されているディレクトリが、OJS-2.2.0 ディレクトリと異なる場合、それらのディレクトリも同時にバックアップします。

【 コマンド例 】

```
root ユーザーからコマンドを実行。  
# cd [htdocs ディレクトリ]  
# tar -cvzf [バックアップ保存先ファイル名.tar.gz] [バックアップ取得ディレクトリ名]
```

2.Postgresql データベースのバックアップ。

OJS-2.2.0 データベースのバックアップを行います、Postgresql に付属している「pg_dump」コマンドを使用し、データベースの内容を全てバックアップします。

また、バックアップ対象の OJS データベース名については、OJS-2.2.0 ディレクトリ内の「config.inc.php」ファイルを参照し「Database Settings - [database]セクション」-「name =」の部分に記述されています。

【 コマンド例 】

Postgresql 用のユーザーからコマンドを実行。

```
$ pg_dump [OJS データベース名] > [データベースのバックアップ保存先ファイル名]
```

4.3.OJS-2.2.4 のインストール

インストールは OJS の Full Package を使用して行い、OJS-2.2.0(現行バージョン)と OJS-2.2.4(新バージョン)を平行稼働させます。

1.OJS-2.2.4 のインストール。

「3.事前準備」予めダウンロードを行っておいた、「ojs-2.2.4.tar.gz」を Web サーバーの htdocs ディレクトリへ解凍します、その時(ファイル解凍時)に、OJS-2.2.0(現行 OJS)ディレクトリを上書きしないように注意してください。(通常、OJS-2.2.4 は「ojs-2.2.4」というディレクトリ名で解凍されます)、その後、OJS-2.2.4 のディレクトリを Web サーバーが使用している Owner と Group 名に合わせて変更してください。

【 コマンド例 】

root ユーザーからコマンドを実行。

```
# cd [htdocs ディレクトリ]
# tar -xvzf [OJS-2.2.4 ファイルの保存場所]/ojs-2.2.4.tar.gz
# chown -R [Owner:Group] [ojs-2.2.4 解凍ディレクトリ名]
```

2.OJS-2.2.4 用の Postgresql データベースを作成。

Postgresql に付属している、「createdb」コマンドを使用し、OJS-2.2.4 用のデータベースを作成します。(例では、「ojs224」データベースを作成しています)

【 コマンド例 】

Postgresql 用のユーザーからコマンドを実行。

```
$ createdb -O [データベースオーナー名] -E UNICODE ojs224
```

4.4.データ移行

OJS-2.2.4 のインストール、およびデータベース作成が完了後、OJS-2.2.0 のデータを OJS-2.2.4 ディレクトリへ移行します。

1.OJS ディレクトリの移行

移行に必要な OJS-2.2.0 内部のファイルを OJS-2.2.4 ディレクトリへ移行します。

【 移行対象ファイル 】

・ config.inc.php ファイル

OJS-2.2.4 ディレクトリ内にある「config.inc.php」を別の名前でバックアップ後、OJS-2.2.0 の「config.inc.php」の内容に合わせて、OJS-2.2.4 ディレクトリ内の「config.inc.php」ファイルを編集してください。

【 コマンド例 】

Web サーバー用のユーザーからコマンドを実行。

```
$ cd [OJS-2.2.4 ディレクトリ]
$ cp config.inc.php config.inc.php.org
$ vi config.inc.php .
```

【 修正項目例 】

```
[config.inc.php]
・ base_url =
    OJS-2.2.4 ディレクトリ名称に合わせて設定。
・ Database Settings - [database]セクションの「name =」
    OJS-2.2.4 用に作成したデータベース名を設定。
・ files_dir =、 public_files_dir =
    OJS-2.2.4 ディレクトリ構成に合わせて適時設定。
```

- ・ upload ディレクトリ、 public ディレクトリ

上記「config.inc.php」設定の「files_dir =」、 「public_files_dir =」の設定に合わせて、OJS-2.2.0 内の該当ディレクトリを、OJS-2.2.4 ディレクトリへコピーします。

【 コマンド例 】

Web サーバー用のユーザーからコマンドを実行。

```
$ cd [OJS-2.2.4 ディレクトリ]
$ mv upload upload.org
$ cp -rp ../[OJS-2.2.0 ディレクトリ]/upload .
$ mv public public.org
$ cp -rp ../[OJS 2.2.0 ディレクトリ]/public .
```

2.OJS データベースの移行。

「4.2.OJS-2.2.0 のバックアップ」で予め取得済みの OJS-2.2.0 データベースバックアップファイルを postgresql 付属の「psql」コマンドを使用し、OJS-2.2.4 用に作成したデータベースへリストアします。

【 コマンド例 】

Postgresql 用のユーザーからコマンドを実行。

```
$ psql [OJS-2.2.4 用のデータベース名] < [OJS-2.2.0 の DB バックアップファイル名]
```

3.OJS データベース更新。

OJS データベースの移行後、OJS-2.2.4 に付属の「upgrade.php」コマンドを使用して、リストア後のデータベースを OJS-2.2.4 形式へ更新します。

Web サーバーのhtdocs 内の OJS-2.2.4 ディレクトリ内へ移動し「upgrade.php」コマンドを実行してください。

【 コマンド例 】

Web サーバー用のユーザーからコマンドを実行。

```
$ cd [OJS-2.2.4 ディレクトリ]
$ php ./tools/upgrade.php upgrade
```

4.5.Web サーバーの起動

- 1.移行作業終了後、Web サーバーを起動してください。

【 コマンド例 】

```
root ユーザーからコマンドを実行。  
# /etc/init.d/httpd start
```

- 2.その後、Web サーバー(OJS)へ接続できることを確認してください。

4. その他、移行後の問題点

- 1.OJS-2.2.0 から OJS-2.2.4 への移行後、電子出版システム(Indesign 用の XML 出力プラグイン)について、OJS 側の仕様変更により、エクスポート時のデータ出力内容に不具合が発生したため、ソースファイルの修正を行った。

【 修正内容 】

OJS の雑誌編集画面にある項目の一つ Abstract 関連のチェックボックスで、OJS-2.2.0 では「要旨は不要である」変数名は「abstractsDisabled」、となっていたものが、OJS-2.2.4 では「抄録を必要としない」変数名は「abstractNotRequired」となっていて、そのままではエクスポート時データ内の「<AbstractsDisabled>」タグが出力されないため、電子出版システムの以下プラグインソースファイルの修正を行った。

[ソースファイル名]

・ InDesignExportDom.inc.php

[修正箇所(288, 408 行目)]

・ getAbstractsDisabled() getAbstractsNotRequired()

- 2.OJS の画面がブラウザにより、崩れる場合があった。

・ StyleSheet や Font の大きさの設定と思われるが、今後の調査が必要。